

権力の暴走 恩師の言葉思ふ

無職

(鳥取県 68)

権力は常に暴走する。このたびはその性格をむき出しにした。一度は政権を投げ出した安倍晋三首相が、今度は用意周到に準備し、国民の多くが反対する中で、安全保障関連法案を衆院で可決した。

第1次政権では教育基本法を変え、第2次では武器輸出三原則を変えて、条件を大幅に緩和。安保法案を成立させることを国会の審議前に米国で約束していた。

今は亡き高校の恩師の話を思い出す。19年前、がん闘病中に、かつての教え子に依頼され「最後の授業」をされた。恩師は終戦時、

国民学校3年生。夏休み明け、戦争や神話に関する記述など教科書

で重要だと教えられていた箇所に墨塗りするよう教師に指導されたという。その体験から「大きな声で人を動かそうとする者を信じてはいけない」と訴えた。今を予期されたかのごとくである。

私は戦後生まれであるが、周囲の大人は戦争体験者であった。私の父も戦争で中国へ行った。皆、ことさら言葉にはしなかったが、再び戦争をしてはならない、平和は尊いということが雰囲気としてあった。それらの人々がほとんどいなくなった中で起こった、歴史に何も学ばぬ権力の暴走である。